

Ⅱ．調査の目的と方法

Ⅱ. 調査の目的と方法

1. 調査の目的

この調査は、市民の八王子市への定住意向の実態を把握し、その要因を分析することにより、近い将来に迎える人口減少社会に向けた政策形成の基礎資料として活用することを目的としている。「定住意向」は、市民の居住地に対する評価を端的に表すものであり、本市を含めた各自治体においては総合計画のベンチマークに採用するなど重要視される指標の1つである。当研究所では、日本の人口が減少期に入ったことを背景に、人口の増減と密接に関わりのある定住意向への注目度が今後さらに高まっていくと予想している。

本報告書では、市民3,000人に対する定住意向アンケートの単純集計及びクロス集計により現状を把握した。今後さらにこの調査結果の分析を進め、定住及び転出を決定する要因や、地域に対する誇りや愛着といった意識や個人の持つネットワークと定住意向との関連性、居住に対する市内各地域の持つ強み・弱みなど明らかにしていく予定である。

なお、この調査は八王子市都市政策研究所の平成24・25年度研究テーマ『人口減少社会とこれからの八王子～定住人口の維持・増加を目指して～』の研究の一環として行ったものである。研究全体では、人口動態、地域特性、将来人口の推計、転入・転出の要因など複数の調査分析結果をあわせて、人口減少社会への対応として本市がとるべき政策の方向について提言する予定である。

2. 調査設計

- ①調査地域：八王子市内全域
- ②調査対象：市内在住の20歳以上84歳以下の男女個人（介護施設等の入所者を除く）
- ③標本数：3,000人
- ④抽出方法：住民基本台帳からの層化多段無作為抽出法
 - ・層化：八王子ゆめおりプラン（基本構想・基本計画）の6地域とする（図表2-1）
 - ・地点配分：（6地域内）14旧事務所管各地域の調査対象人口比に応じて標本数を配分
 - ・標本抽出：14旧事務所管内別に無作為系統抽出（補欠200を含む3,200）

【本調査における地域区分（14旧事務所別）】

- 中央地域：本庁管内
- 西部地域：元八王子・恩方・川口
- 西南部地域：浅川・横山・館
- 北部地域：加住・石川
- 東南部地域：由井・北野
- 東部地域：由木・由木東・南大沢

図表 2 - 1 八王子市における 6 地域区分



地域区分	町名（五十音順）
中央地域	暁町・旭町・東町・上野町・追分町・大横町・大和田町・小門町・清川町・子安町・新町・千人町・台町・田町・寺町・天神町・中町・中野上町・中野山王・中野町・八幡町・日吉町・平岡町・富士見町・本郷町・本町・三崎町・緑町・南新町・南町・明神町・元本郷町・元横山町・八木町・八日町・横山町・万町
西部地域	泉町・犬目町・小津町・叶谷町・上壺分方町・上恩方町・上川町・川口町・川町・下恩方町・諏訪町・大楽寺町・檜原町・西寺方町・式分方町・美山町・元八王子町・横川町・四谷町
西南部地域	裏高尾町・大船町・櫛田町・散田町・城山手・高尾町・館町・寺田町・廿里町・長房町・並木町・西浅川町・狭間町・初沢町・東浅川町・南浅川町・めじろ台・山田町
北部地域	石川町・宇津木町・梅坪町・大谷町・尾崎町・加住町・久保山町・小宮町・左入町・平町・高倉町・高月町・滝山町・丹木町・戸吹町・丸山町・みつい台・宮下町・谷野町
東南部地域	打越町・宇津貫町・片倉町・北野台・北野町・絹ヶ丘・小比企町・長沼町・七国・西片倉・兵衛・みなみ野
東部地域	大塚・鹿島・上柚木・越野・下柚木・中山・南陽台・東中野・別所・堀之内・松が谷・松木・南大沢・鑓水

⑤調査方法：郵送配付・郵送回収

⑥調査期間：平成 24 年 10 月 11 日（木）～10 月 25 日（木）※実際は 11 月 22 日回収分まで集計

⑦調査機関：八王子市都市政策研究所

3. 調査項目の構成

- ①背景要因
 - (ア) 人口学的要因
 - (イ) 家族要因
 - (ウ) 社会経済的要因
 - (エ) 生活史的要因
- ②住環境に対する価値観
 - (ア) 住環境満足度 (11 項目)
 - (イ) 住環境に対する評価 (2 項目)
- ③地域に対する価値観
 - (ア) 地域帰属意識
 - (イ) 地域に対する誇り・愛着
 - (ウ) 地域活動への参加状況
 - (エ) 近所づきあいの状況
 - (オ) 地域とのつながりの実感
- ④定住要因
 - (ア) 定住意向/転出意向
- ⑤自由記述 (※本報告書には含まない。次年度最終報告書に記載予定。)
 - (ア) 定住意向/転出意向の理由

4. 回収結果

回収結果は下記の表のとおりであり、有効回収率は 52.7%であった (図表 2 - 2)。

図表 2 - 2 回収結果

	合計	中央	西部	西南部	北部	東南部	東部
配布数	3000	667	534	549	252	427	571
有効配布数(a)	2985 ¹⁾	663	532	548	250	424	568
回収数	1588	351	283	297	133	225	299
うち無効数	14	5	4	2	2	1	-
有効回収数(b)	1574	346	279	295	131	224	299
有効回収率(b/a)	52.7%	52.2%	52.4%	53.8%	52.4%	52.8%	52.6%

注：1) あて先不明による不着 15 通を除いた数

2) 2012 年 11 月 22 日時点

なお、本報告書及び【概要版】では、主要なグラフのみ掲載した。調査分析内容の詳細、掲載されていないグラフ等をお知りになりたい方は、八王子市都市政策研究所までお問い合わせいただきたい。

5. 本報告書の見方

- 調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。四捨五入の関係で、合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超える。
- 図表中の「n」の値は、質問票の構成上その設問に回答を求めた人数を表す。
- 選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いている。
- クロス分析の基本軸は、性別、年齢層別、居住地域別としている。
- クロス軸のカテゴリーや質問における選択肢を統合し、《 》を用いて記述している場合がある。(例えば「20～29歳」と「30～39歳」を統合して《20～39歳》、「非常に満足」と「やや満足」を統合して《満足》と記述している。)
- クロス分析において、回答者数の少ない属性についてのコメントは控えている。
- クロス集計の分析軸となる項目に「無回答」がある場合、これを表示していない。したがって、「全体」の数値と各項目の和が一致しない場合がある。

統計の数値を考察するにあたり、次の表現を用いている。

(例)	80.1～80.9%	⇒	約8割
	81.0～82.9%	⇒	8割強
	83.0～84.9%	⇒	8割台半ば近く
	85.0～85.9%	⇒	8割台半ば
	86.0～87.9%	⇒	8割台半ばを超え
	88.0～88.9%	⇒	9割近く
	89.0～89.9%	⇒	9割弱

《備考》

なお、本調査の標本誤差は次の式によって得られる。また、早見表は以下の通りである。

$$k = \pm 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(100-P)}{n}} \quad \times \frac{N-n}{N-1} \doteq 1$$

k = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数 (サンプル数)
 P = 回答比率

回答の比率 (P) 基数 (n)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
1,574	± 2.14	± 2.85	± 3.27	± 3.49	± 3.56
1,400	± 2.67	± 3.02	± 3.46	± 3.70	± 3.78
1,200	± 2.45	± 3.27	± 3.74	± 4.00	± 4.08
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
500	± 3.79	± 5.06	± 5.80	± 6.20	± 6.32
300	± 4.90	± 6.53	± 7.48	± 8.00	± 8.17